

農家の不受胎牛を預かり、妊娠牛として返却

肉用繁殖農家において、長期にわたって妊娠できない不受胎牛は分娩間隔が長くなり、子牛販売収入が減少するため、経営に打撃を与えてしまいます。そこで、当场では放牧が可能な5月～11月の期間中にこれらの牛を預かり、放牧場で運動や青草摂取などでリフレッシュさせながら集中的な繁殖管理により受胎させ、妊娠牛として農家へ返却する「繁殖雌牛預託事業」を平成28年度から行っています。今年度は1回目として8頭を預かり、放牧を行っています。



放牧場でリフレッシュ中の牛たち

畜産センター 碓高原牧場